

高齢者の地域に対する意識からみる 地方都市郊外地域がもつ場所の意味

—太閤山ニュータウンを事例に—

12210071

重野功太郎

既存研究

[場所アイデンティティに関する研究]

レルフ(1991)

場所を経験に基づく現象として捉える

- ・ 場所アイデンティティ

個人や集団が場所に対して持つアイデンティティ

→ 場所に対して「内側」になることでその場所に属し、
場所アイデンティティが強まる

個人が有する場所アイデンティティの形態を
内側性の概念で示した

既存研究

[帰属意識に関する研究]

Yuval-Davis (2006)

個人的で感情的なつながり、いわゆる「居場所」を感じる

Antonsich (2010)

個人的かつ親密な、ある場所に「居心地よく」いる感覚

➡ 主観的な感情としての帰属意識に焦点を当てる

既存研究

[場所の意味に関する研究]

堀川（2010）

場所は、その環境に関わる人々の価値観や付与された意味によって規定される

レルフ（1991）

場所の本質は、場所と人との深い結びつきやその場所についての意識であり、場所の意味の基礎となるのはその場所での個人的な経験と意図である

 地域に対する意識に大きく関わる個人の経験や意図に注目して考察する

分析の枠組み

レルフ（1991）の内側性の概念

・ 場所アイデンティティ

➡ 場所での経験の深さに関係して形態が変化

物質的要素：場所の物質的特徴・見かけの様子

人間活動：場所での人間の活動とその機能

意味：物質的要素・人間活動に個人が付与する



構成要素を考察することで理解することができる

分析の枠組み

レルフ（1991）の内側性の概念

行動的内側性：場所にただ物理的に存在すること

感情移入的内側性：行動的だけでなく感情的にも
その場所に参画する

実存的内側性：場所への完全で無意識的なかかわり
場所への所属感を特徴とする



帰属意識の形成過程を検討する上で、場所アイデンティティの形態の移り変わりについても検討することが必要だと考えられる

分析の枠組み

岩井ほか(2022)の研究方法を参考

- ・ 帰属意識

Antonsich(2010)

自伝的要因

特定の人物と場所を結びつける、個人的な経験や記憶、歴史に関するもの

関係的要因

特定の場所における個人の生活を豊かにする
個人的および社会的なつながり

研究目的

地方都市郊外に住む高齢者の場所アイデンティティの形態の移り変わりおよび地域社会に対する帰属意識の形成過程を検討する

高齢者の場所アイデンティティの形態の移り変わりおよび帰属意識の形成過程から、居住者にとっての地方都市郊外が持つ場所の意味を考察する

研究方法

太閤山ニュータウン内の太閤山地区・南太閤山地区で
男性7名、女性21名に聞き取り調査

岩井ほか(2022)を参考

- ・ 基本属性(年齢・出生地・居住経歴・就業経歴など)
- ・ 最も強く帰属意識を感じる地域
- ・ 太閤山地域で愛着を感じる場所
- ・ 太閤山地域内外での記憶や経験
- ・ 太閤山地域内外における社会的つながり

対象地域概要

射水市太閤山ニュータウン
太閤山地区・南太閤山地区

令和2年時点の高齢化率

太閤山地区：24.9%

南太閤山地区：38.8%



高齢化が進んでいる地域



(地理院地図により作成)

調査対象者概要

ID	性別	年齢	出生地	居住地区	居住年数	かつての職業	職業地	帰属意識を最も感じる地域	太閤山地域外における交友関係	太閤山地域における各種活動への参加経歴
1	女性	55	池多村	太閤山	10	介護施設職員	横内	前住地(富山市)	子ども家族や友人と会う(富山市,月1回)	サークル活動(週2回)
2	女性	75	大原町堺市	南太閤山	9	夫婦で経営 太閤山では主婦	全国各地	出身地(堺市)	地元の同窓会に出席(大原町,年1回)ほか	サークル活動(週2回),町内の役員(輪番制)
3	女性	75	富山市	南太閤山	30	医療関係	富山市	職業地(富山市)	ほとんどなし	地味活動,サークル活動(週1回)
4	女性	51	新渡市	太閤山	52	専業主婦パート	太閤山	出身地(新渡市)	ほとんどなし	サークル活動(週2回)
5	女性	50	新渡市	南太閤山	40	専業主婦	太閤山	太閤山	ほとんどなし	サークル活動(週1回),地味活動はほとんど参加
6	女性	74	大原町大原市	南太閤山	42	専業主婦	太閤山	太閤山	出身地の友人と会う(大原町,2~3年に1回)	サークル活動の講師(週1回),町内会役員(輪番制)
7	女性	57	針水市	太閤山	50	団体職員	太閤山	太閤山	ほとんどなし	サークル活動(週1回)
8	女性	77	高岡市	太閤山	53	会社員	高岡市	太閤山	出身地の友人と会う(高岡市,年3~4回),習い事(針水市月3回)	ほとんどなし
9	女性	57	岐阜県高山市	太閤山	53	団体職員	富山市	太閤山	出身地の友人と会う(高山市,数年に1回)	サークル活動(週2回)
10	女性	53	水見市	太閤山	55	専業主婦一会社員	太閤山	太閤山	ほとんどなし	サークル活動(週2回)
11	女性	50	池多村	太閤山	45	会社員	太閤山	太閤山	ほとんどなし	サークル活動(週2回)
12	女性	75	水見市	太閤山	40	会社員一専業主婦	小杉町	太閤山	半生時代の友人と会う(高岡市,数年に1回)	町内会の役員,サークル活動(週1回)
13	女性	55	高岡市	太閤山	55	芸術系	高岡市	太閤山	習い事(針水市,月2回)	サークル活動(週2回)
14	女性	52	石川厚狭島市	太閤山	30	医療関係	太閤山	太閤山	ほとんどなし	元同僚と会う(年2回),サークル活動(週2回)
15	女性	74	高岡市	太閤山	53	会社員	高岡市	太閤山	出身地の友人と会う(年に1回)	サークル活動(週2回)
16	女性	77	小杉町	太閤山	55	専業主婦一会社員	針水市	太閤山	ほとんどなし	サークル活動(週1回)
17	女性	52	高岡市	太閤山	50	パート	太閤山	太閤山	ほとんどなし	サークル活動(週2回)
18	女性	77	愛知県春日井市	太閤山	37	専業主婦	太閤山	太閤山	ほとんどなし	サークル活動(週3回),町内会の役員(輪番制)
19	女性	75	高岡市	太閤山	55	専業主婦	太閤山	太閤山	ほとんどなし	サークル活動(週2~3回)
20	女性	50	大門町	太閤山	55	パート	針水市	太閤山	高校時代の友人と会う(年1回)	サークル活動(週3回)
21	女性	75	小杉町	太閤山	55	医療関係	富山市	太閤山	元同僚と旅行などに行く(数年に1回)	サークル活動(週2回)
22	男性	73	高岡市	南太閤山	55	会社員	砺波市	太閤山	ほとんどなし	町内会の役員(輪番制)
23	男性	51	小杉町	太閤山	55	会社員	富山市・全国各地	太閤山	ほとんどなし	地味活動,サークル活動(週4~5回)
24	男性	79	小杉町	太閤山	55	団体職員	高岡市	太閤山	友人と趣味のゴルフ(週1回)	地味活動(週2~3回)
25	男性	72	小杉町	太閤山	45	会社員	富山市	太閤山	ほとんどなし	地味活動,サークル活動(週3~4回)
26	男性	75	小杉町	太閤山	53	団体職員一会社員	富山県内	出身地(小杉町)、新潟市	半生時代の友人,先輩後輩と会う(針水市,年に3回),大半時代の友人と会う(新潟,年3回)	地味活動(週3~4回),サークル活動(週1回)
27	男性	51	中太閤山	太閤山	42	会社員	富山市	神になし	ほとんどなし	サークル活動(週1回)
28	男性	51	大門町	太閤山	55	公務員	富山市	太閤山	趣味のボウリング(週1回)	地味活動(週3~5回)

(聞き取り調査により作成)

分析（場所アイデンティティ）

行動的内側性（ID:1）

物質的要素

「(前住地の方が)よく知っている(ID:1)」 場所
住環境をあまり高く評価していない

人間活動

サークル活動に参加

「子供とも別居だし、なんかしとらんとさみしい(ID:1)」

「家に1人でおってもつまらんからね(ID:1)」

分析（場所アイデンティティ）

行動的内側性

意味

- ・ 前住地の方が空間的な知識が発達しており、家族との記憶が残る馴染み深い場所になっている
- ・ サークル活動に参加する意図は孤独感の解消が主で場所とのつながりを見出そうとするものではない

 現在の住居がある場所に過ぎず、前住地が意味に富む場所として理解されていると考えられる

分析（場所アイデンティティ）

感情移入的内側性（ID:2）

物質的要素

- ・ 町内の班長をして太閤山ニュータウン内についての空間的な知識を発達させている
- ・ 高齢期に同世代が集まる場が提供されていること、豊かな自然環境を有する住環境を高評価

人間活動

- ・ 太閤山ニュータウン内複数地区でサークル活動に参加
- ・ 地域活動やサークル活動で社会関係を発展させている

分析（場所アイデンティティ）

感情移入的内側性

意味

- ・ 物理的環境と写真撮影の趣味が結びついている
- ➡ 高齢期の生きがいや幸せを感じることができる場所
- ・ 高齢期に転入してきた太閤山ニュータウンに関する知識を深めるだけでなく、社会関係を築く場となる
- ・ 太閤山ニュータウン内のことをよく知り、社会関係を広げようとする姿勢を持つ
- ➡ 空間的な知識の発達や社会関係の形成を通して、場所と自身を結びつける場になっている

分析（場所アイデンティティ）

感情移入的内側性

➡ 場所に対する深い配慮とかかわりの感覚の感覚を持ち、
緊密な愛着、親近感を伴って場所を経験すること

（レルフ 1991）

「同年代の人と楽しい行事に参加したい(ID:2)」

「すごく気に入っているからずっと住みたい(ID:2)」

➡ 現在の居住地である太閤山ニュータウンにかかわろう
とする意識や愛着が読み取れる

分析（場所アイデンティティ）

実存的内側性（ID:3~28）

物質的要素

- ・ 日常生活や子育ての面から住環境を高く評価
- ・ 長年居住する中で、「地域が整備されていく様子を間近で見てきた(ID:7)」ことがわかる語り

人間活動

- ・ 多くの人がサークル活動、特に男性は地域活動に参加
 - ・ 「太閤山地区でボランティア活動してからなんとなくここらへんのこと考えるようになった(ID:18)」
- ➡ 社会関係を築く場であるだけでなく、
地域のことを考えるきっかけに

分析（場所アイデンティティ）

実存的内側性

意味

- ・ 単に空間的な知識を持つだけではなく、物理的環境に対して持つ認識に、長年居住する中で蓄積された経験や記憶が絡み合っていた

➡ 物質的要素を通じた場所とのつながり

- ・ 「地域の世話をしようとして(地域活動に)参加した(ID:28)」
地域のことを考える意図を持って地域にかかわっている

➡ 場所に対する深い配慮とかかわりの感覚を持つ

分析（場所アイデンティティ）

実存的内側性

- ➡ 特徴として、場所への無意識的なかわり
「退職してから地域の仕事をするようになったけど、聞かれるまであんまり考えたこともなかったけど、(地域に対する)気持ちがないと続かないかな(ID:26)」

時間が経過するうちに人は場所に馴染むようになり、場所を当然のものとして受け入れることができるようになる

（トゥアン 1988）

場所アイデンティティの関係構造に、長年にわたって蓄積された経験から生まれる意味が絡み合っている

- ➡ 無意識的な場所とのかかわり

分析（帰属意識）

子育てを通じた経験や記憶、社会関係を拠り所とする意識

「子供が育ってきた場所だし、家族の地盤(ID:6)」

➡ 子育ての経験や記憶を通じた場所とのつながり(自伝的要因)

「みんな同じくらいの子供がおったから仲良くてすごい
よかった(ID:13)」

➡ 郊外に転入してきた女性が子供を通じて社会関係を築いた
(关系的要因)

高齢期にはサークル活動などを通じた社会関係が中心に

「遠くの親戚よりも近くの他人みたいな感じになる(ID:14)」

➡ 子育てを通じた経験や記憶、社会関係が帰属意識の拠り所に

分析（帰属意識）

地域にかかわることを通した経験や社会関係を拠り所とする意識

「地域に出るようになって、いろいろな人の世話をするようになってくると、(地域への)気持ちが変わってくるね(ID:23)」

➡ 地域にかかわり地域のことを深く考える経験を通して、場所とのつながりを見出している(自伝的要因)

就業時には職住分離の影響を受けて居住地での社会関係が希薄な男性や子育てを太閤山で経験していない女性

→自ら地域に出ることで高齢期の社会関係を築く

「地域に出るようになると太閤山の人と交流ができるし、関係性が近くなる(ID:25)」

➡ 希薄であった太閤山ニュータウンでの社会関係が、地域にかかわることで高齢期には豊富で密なものに(关系的要因)

分析（帰属意識）

太閤山ニュータウンの造成前から太閤山地域に関わりがある人
(ID:26,27,28)

「小さいころから(太閤山に)来ることは多かったから馴染はあるし、あんまり考えることなかったけど、地域の仕事をする責任みたいなのは感じる(ID:26)」

「(ニュータウンの)造成前から太閤山をよく知っているし、(帰属意識を感じる理由として)若いころから地域の世話をしようと考えて、地域に出ていたことも大きい(ID:28)」

➡ 長年に渡って太閤山地域との関わりを持つ中で、無意識的に太閤山地域に根差し、太閤山地域が根もと(ルーツ)のある場所になっていることが読み取れる

分析（帰属意識）

帰属意識を最も感じる地域を「太閤山」以外の地域と答えた人
(ID:3,4)

- ・ 帰属意識を強く感じる地域での特別な経験

「(就業地は)一人前になった場所だから思い入れがある(ID:3)」

「(出身地が)新港にかかったからみんなばらばらに(ID:4)」

場所への愛着ができるためには、その場所での経験の特質と強さが重要である (トゥアン 1988)

➡ 帰属意識にも当てはまる可能性が示唆される

考察（場所の意味）

地方都市郊外地域が持つ場所の意味

場所の均質性と標準化からもたらされる没場所的な景観

（レルフ 1991）

生産活動が展開される都心と機能的に分離した、

再生産活動が展開される場

（関村 2024）

「仕事してた時は自分の時間は少ないね、女だから家に帰ってご飯の用意せんなん、それが普通(ID:12)」

「仕事していた時は家にあんまりいなくて、ここらへん歩いてても誰が住んどるかとかなんにもわからなかった(ID:23)」

➡ 太閤山ニュータウンもかつては、再生産活動が展開される場になっていたことが読み取れる

考察（場所の意味）

男性：退職後に地域にかかわることで太閤山ニュータウン内での社会関係を形成し、居住地に対して「深い配慮とかかわりの感覚」を持つ

女性：子育ての経験を通して家族の「地盤(ID:6)」であるだけでなく、高齢期における豊富な社会関係を持ち、サークル活動などの子供が成長した後の「生きがいがある(ID:9)」場所になっている

➡ 高齢期には、現役時から太閤山地域に根もと(ルーツ)がある人だけでなく、他地域から転入した人にとっても、単なる居住地や再生産空間ではなく、地域の一員として自身を位置付けることができる根もと(ルーツ)のある住まい(ホーム)になっていると考えられる

考察（場所の意味）

太閤山地域に帰属意識を最も強く感じる調査対象者から多くきかれた、

「長いから(ID:12,14,15,19,21,22)」

「住めば都(ID:7,9,16,22,23,28)」



長年にわたる太閤山ニュータウンでの生活の中で得た経験に付随する、子どもや地域へのかかわりに関する意味や、彼らにとっての太閤山ニュータウンという場所が持つ意味が含まれていると考えられる

参考文献

- 岩井優祈・岡田晃暉・中村瑞歩・久保倫子 2022. 郊外住宅地における高齢者の帰属意識——竜ヶ崎ニュータウンの事例. 地理空間15(3):283-293.
- 関村オリエ 2024. 計画空間としての都市郊外と女性たち——生産と再生産の空間に向けて. 経済地理学年報70(1):21-45.
- トゥアン,Y. 著,山本浩訳 1988. 『空間の経験 身体から都市へ』 筑摩書房.
- 堀川三郎 2010. 場所と空間の社会学——都市空間の保存運動は何を意味するのか. 社会学評論60(4):517-534.
- レルフ,E. 著,高野岳彦・阿部隆・石山美也子訳 1991. 『場所の現象学 没場所性を越えて』 筑摩書房.
- Antonsich,M. 2010. Search of belonging: an analytical frame *Geography Compass*4: 644-659.
- Yuval-Davis,N. 2006. Belonging and the politics of belonging. *Patterns of Prejudice*40-3, 197-214.